

3

子ども一人ひとりを大切にする教育の推進

取組方針

教員が子どもと向き合いながら、いじめや不登校の未然防止に努め、早期発見・早期対応を図るとともに、特別な支援を必要とする子ども一人ひとりの将来の自立と社会参加に向けた学びの充実を図るために、以下の取組を推進します。

(1) いじめ不登校などに対する相談・支援体制の充実

いじめや不登校などの相談に対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家との連携を図りながら、適切な支援体制の整備を進めます。

①生徒指導の充実

児童生徒が自主的に判断・行動し、積極的に自己を生かしていく力を育成するために、愛情と信頼に基づく人間関係の構築と、望ましい教育環境の実現に努めるとともに、学校や家庭・地域社会及び関係諸機関との連携・協力を積極的に図っている。

特に、インターネット等の安全な利用やいじめの根絶、不登校等の児童生徒に対するかかわりや支援、問題行動等を繰り返す児童生徒への指導・支援等に重点的に取り組んでいる。

■熊本市いじめ防止基本方針

平成25年9月に施行されたいじめ防止対策推進法を受け、国・県・市・学校・家庭・地域その他の関係者が連携して、いじめの問題の克服に向けて総合的かつ効果的にさまざまな取り組みを進めるために、平成26年3月に熊本市いじめ防止基本方針を策定した。

本市は、「いじめは絶対に許さない」という強い意識を持ち、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努め、家庭、地域、関係機関等と連携し、「いじめ根絶」に向け取り組んでいる。

また、熊本市立のすべての小・中・高等学校においてもそれぞれの学校の実情に応じた「学校いじめ防止基本方針」を策定した。

■スクールカウンセラー（SC）

いじめ・不登校・暴力行為などの児童生徒の問題行動に関して、専門的カウンセリング等による対応を行っている。

平成9年度から平成23年度までは県から配置されていたが、平成24年度からは、本市が実施主体となり、事業の充実を図っている。平成28年度は、熊本地震の発生に伴い、日本臨床心理士会の協力を得て、対応が必要なすべての小中学校にスクールカウンセラーの配置を行った。

平成29年度からは、全中学校42校を拠点校としてスクールカウンセラーを配置し、すべての小中学校に対応できる体制を整えた。また、地震に伴うカウンセリングの必要性が高い小学校に、拠点校のカウンセラーとは別に重点校のスクールカウンセラーを配置している。

(通常対応は国1 / 3 補助事業) (地震対応は国10 / 10 補助事業)

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
延べ相談件数	3,364件	3,959件	3,829件	4,267件	13,373件

■心のサポート相談員

平成16年4月から「心のサポート相談員配置事業」として、児童生徒が悩み等を気軽に話せ、ストレスを和らげることができるような地域の人材を、相談員として配置している。平成29年度は、小学校46校に配置している。(国1 / 3 補助事業)

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
延べ相談件数	小学校	6,674件	7,541件	9,022件	9,923件	12,074件
	中学校	4,744件	3,654件	3,153件	3,550件	3,069件
	計	11,418件	11,195件	12,175件	13,473件	15,143件

■スクールソーシャルワーカー（SSW）

いじめや不登校問題をはじめ生徒指導上の諸問題の積極的予防及び解消のために、関係機関と連絡・調整を進め、子どもにかかわる問題や環境の改善を図っている。

平成20年度から平成22年度までは県から配置されていたが、平成23年度からは本市が実施主体となったことから事業の充実を図り、平成28年度は、精神保健福祉士2人、社会福祉士7人の計9人を配置した。（国1／3補助事業）

年 度		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
SSWの数		4人	5人	6人	6人	9人
活動時間数		4,400時間	5,500時間	6,600時間	6,600時間	9,900時間
派遣人数	小学校	193人	236人	285人	269人	323人
	中学校	129人	150人	208人	252人	298人

○配置形態 総合支援課教育相談室に配置し、要請に応じて学校等に派遣する。

○主な業務内容

- ・問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働き掛け
- ・関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整
- ・学校内におけるチーム体制の構築、支援
- ・児童生徒、保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供
- ・教職員等への研修活動 等

■ユア・フレンド

平成14年4月から、熊本市教育委員会と熊本大学教育学部の連携協力の一つとして実施している。

不登校等の児童生徒に対し、ユア・フレンドとして登録した熊本大学教育学部の学生を、小・中学校からの派遣依頼に応じて、家庭や学校等に派遣し、話し相手・遊び相手になってもらう。

平成28年度は、男子32人、女子124人、合計156人の学生がユア・フレンドとして登録し、活動を行った。



ユア・フレンド意見交換会の様子

<ユア・フレンドに登録した学生数の推移>

(人)

年 度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
男 子 学 生	27	28	30	31	32
女 子 学 生	148	152	161	151	124
合 計	175	180	191	182	156

○平成28年度実績

- ・派遣した学校数 64校（小学校：32校、中学校：32校）

・派遣学生の内訳 (人)

派遣先	家庭	校内1対1	校内複数	フレンドリー	合計
男子学生	15	10	5	1	31
女子学生	28	29	49	10	116
合計	43	39	54	11	147

※1：重複して派遣されている学生を含む。

※2：本人の都合等により、30人（男子学生4人、女子学生26人）が未派遣。

・派遣先児童生徒数の内訳 (人)

派遣先	小学校			中学校			小・中学校合計			
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	
家庭	8	8	16	12	14	26	20	22	42	
学校	1対1	10	7	17	6	14	20	16	21	37
	対複数	16	19	35	43	69	112	59	88	147
合計	34	34	68	61	97	158	95	131	226	

※総派遣回数 1,934回（平成27年度は2,343回）

②専門的かつ迅速な相談の実施

■緊急対応相談員

平成20年4月から、熊本市立学校等の児童・生徒及び保護者を対象として、学校等での緊急又は解決困難な様々な問題に対応する緊急対応相談員を派遣している。臨床心理士による心のケア、カウンセリング等を行うほか、平成25年度からは、新たに、いじめや生徒間暴力等の問題行動等への弁護士による相談・支援を行っている。（国1／3補助事業）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
対応相談 件数	小学校	15件	22件	16件	15件	12件
	中学校	12件	7件	29件	37件	14件
	計	27件	29件	45件	52件	26件

■教育相談に関する事業

○来所相談（専門家による相談を含む。要予約）

発達や就学、いじめや不登校など教育に関する相談を行う。

- ・対象 発達や就学、いじめや不登校等に関して、熊本市在住の年長児、小・中・高校生の子ども本人、保護者及び学校関係者
- ・相談時間 月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く） 午前9時30分～午後3時45分
- ・電話 (096) 362-7070
月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）午前9時～午後5時15分

<相談件数の推移> (件)

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
延べ 相談件数	発達や就学	1,648	1,604	1,761	1,795	1,864
	不登校	777	1,074	1,160	970	1,014
	その他	18	26	18	8	12
	計	2,443	2,704	2,939	2,773	2,890

○適応指導教室（フレンドリー、火の君学級、スクーリングアップ教室）

不登校の状態にある児童生徒に対して、個別や集団での活動を通して適応指導を行うことにより、学校復帰を支援し、社会的な自立を目指す。

- ・申込 保護者から学校を通して
 - ・活動時間 月～金曜日 午前9時30分～午後3時（休日、年末年始、春・冬休み期間を除く）
火曜日 午前9時30分～正午（休日、年末年始、春・冬休み期間を除く）
- ※スクーリングアップ教室においては、火・木曜日のみ、午前9時～正午まで。夏季休業中は実施しない。
- ・活動内容 スポーツ活動、パソコン学習、読書活動、仲間づくり活動、ものづくり活動、終日体験活動、学習支援、宿泊キャンプ など

<通所人数の推移> （フレンドリー、火の君学級、スクーリングアップ教室の合計人数）（人）

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
中学生	74	83	79	79	60
小学生	9	11	11	9	11
合計	83	94	90	88	71

■不登校対策サポーター

平成28年度から、不登校に課題のある学校に不登校対策サポーター1名を配置し、不登校児童生徒の状況や不登校への対策を把握して、未然防止や早期対応への指導・助言を行っている。必要に応じて、担任等と連携して不登校児童生徒や家庭とかかわりを持ち、不登校児童生徒の減少を目指している。

■カウンセリングの研修

教育相談活動上必要となるカウンセリング技法を習得し、児童生徒・保護者の支援に活かす研修を行っている。講師に教育現場等で活躍中の臨床心理士を招き、ロールプレイをするなど参加体験型の研修を行い、カウンセリング技法のスキルアップを図る。

現場の要望に応え、平成24年度にSD（自己啓発）活性化支援希望研修の一講座として「保護者カウンセリング」講座を開設した。保護者との信頼関係づくり、保護者相談への対応法について力量を高めるため、平成29年度も実施する。

<平成28年度実績>

○SD 活性化支援希望研修 ・子どもいきいき！わくわく体得カウンセリング！！ 対象者（幼・小・中・高・ビジネス専門学校） 67人 ・保護者もいきいき！わくわく体得カウンセリング！！ 対象者（幼・小・中・高・ビジネス専門学校） 72人	○Off-JT 研修（経年者研修） ・初任者研修「カウンセリング研修」 対象者（小・中・高等学校） 89人 ・10年経験者研修「カウンセリング研修」 対象者（小・中学校） 38人
--	---

<平成29年度事業>

○SD 活性化支援希望研修 ・保護者も子どもも、いきいき！わくわく体得カウンセリング！！ 対象者（幼・小・中・高・ビジネス専門学校・特別支援学校）	○Off-JT 研修（経年者研修） ・初任者研修「カウンセリング研修」 対象者（幼・小・中・高等学校） ・中堅教諭等資質向上研修（10年経験者研修） 「カウンセリング研修」 対象者（小・中学校）
---	--

(2) 特別支援教育の推進

特別な支援を必要とする幼児児童生徒の自立と社会参加に向けて、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、障がいの状態や発達段階、特性に応じた適切な教育を推進している。

■熊本市特別支援教育推進計画

特別支援教育を総合的・計画的に推進するための基本的な指針として平成24年12月に策定した。

基本目標を「一人ひとりの育ちを支える特別支援教育の充実」と定め、基本方針として、「幼児期から卒業後まで一貫した支援体制の構築」「特別支援教育の質的向上」「教職員の専門性の向上」「多様な学びの場の確保」を掲げ、これらの方針に沿ってライフステージごとに施策の方向性と取り組みを明確にして、特別支援教育の充実を図ることとしている。

■笑顔いきいき特別支援教育推進事業

発達障がい等を含めた幼児児童生徒への総合的な支援体制の構築を図ることを目的に、医療・療育などの関係機関等と連携して特別支援教育を推進するため、熊本市特別支援連携協議会を設置するとともに、市内を5地区21ブロックに分け、拠点校を中心として地域ごとに取組の活性化を図っている。

■教職員の専門性の向上

ブロック毎に、情報交換会、専門家を招聘した研修会、授業研究会等を行っている。また、特別支援学級の担任や通級指導教室の担当、特別支援教育コーディネーターなどを対象に、全市的な研修を計画的に実施するほか、各学校では校内研修、巡回相談員や専門家を招聘した研修会、特別支援教育の視点を生かした授業研究会等を行っている。

平成23年度から「特別支援教育スキルアップ派遣研修」を実施しており、平成27年度は20人の教諭を県内外の先進的な取組を行っている特別支援学校等に課業日の5日間派遣し、研修を行った。(平成28年度は、熊本地震のため派遣中止)

■特別支援学級設置状況（平成29年5月1日現在）

区 分	知的障害学級		病弱学級 院内学級		自閉症・情緒 障害学級		肢体不自由 学級		弱視学級		難聴学級		合 計	
	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
校 種														
学校数(校)	85	40	19	9	87	38	24	11	4	0	11	5	91	41
学級数(学級)	107	47	21	10	121	61	24	11	4	0	12	5	289	134
在籍者数(人)	488	193	39	13	586	324	33	12	4	0	20	8	1,170	550

■通級指導教室設置状況（平成29年5月1日現在）

区 分	言語障害通 級指導教室		情緒障害通 級指導教室		難聴通級 指導教室		LD・ADHD 通級指導教室		合 計		区 分	ことばの 教室
	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中		
校種											校 種	幼稚園
学校数 (校)	8	—	9	—	2	1	9	3	20	4	園数(園)	2
教室数 (学級)	17	—	13	—	3	1	12	4	45	5	指導者数 (人)	10
利用者数 (人)	220	—	154	—	9	5	169	66	552	71	利用者数 (人)	119

■階段昇降機整備

車椅子を使用する児童生徒がいる小・中学校へ、車椅子をのせることができる階段昇降機を導入し、移動の円滑化を図る。

- ・平成28年度末 保有台数 24台

■修学旅行特別支援経費

熊本市立小中学校の修学旅行の実施に際し、常時介添えを要する児童生徒の保護者が、当該児童生徒に付き添う場合に経費の一部を補助する（平成17年度事業開始）。

○補助の上限額

- ・小学校：33,100円
- ・中学校：81,340円

■特別支援学校整備

知的障がいのある児童生徒への専門的指導や就学・進学ニーズに応えるため、市立特別支援学校を設置する。今後、特別支援学校は、市内の教職員や保護者の研修や教育相談等、地域の特別支援教育を推進するセンター的役割を担い、特別支援教育の充実に貢献できる学校を目指すもの。

○小・中学部の建設

設置学部（学級）	小学部・中学部（一般学級）
対象となる障がい種	知的障害
学校規模（学級数等）	小学部 各学年1学級（全6学級 全児童36人程度） 中学部 各学年2学級（全6学級 全生徒36人程度）
建設用地	城東小学校・藤園中学校敷地内
開校時期（予定）	平成32年4月
整備スケジュール	平成27～28年度 基本設計・実施設計、藤園中新体育館建設工事 平成29年度 藤園中旧体育館等解体工事、埋蔵文化財調査、校名決定 平成30～31年度 校舎建設工事 平成32年度 開校（予定）

○市立特別支援学校（高等部）の開校

◇熊本市立平成さくら支援学校

平成29年4月1日、熊本市南区平成2丁目に開校した知的障がいのある生徒を対象とした特別支援学校高等部である。

設置学科は「普通科」、設置学級は「一般学級（現在3学級）」とし、本年度は1年生22人が在籍している。今後学年進行で入学し、平成31年度に3年生まで揃う計画になっている。

教育課程については、生徒の自立・社会参加に向け、教科等の指導はもちろん、作業学習や生活単元学習等の職業生活や家庭生活、社会生活に関する学習を行っている。特に作業学習につ



【学校外観】



【開校初年度の入学式】

いては、木工、農園芸、清掃、食品加工の作業種に取り組み、卒業後の就労を意識しながら働く力を培うことを重視している。今後の生徒の増加に伴い、校内に設置したカフェを利用した「接待」や「手工芸」、「軽作業」等、新たな作業班の開設も予定している。

○校訓 「自立・夢・挑戦」

○学校概要

設置学科（学級）	普通科（一般学級）
対象となる障がい種	知的障害
学級数等	・開校時、1学年3学級 ・学年進行にて入学（平成31年度：3学年9学級）
生徒数	1年生22人（平成29年5月1日現在）
所在地及び敷地面積	熊本市南区平成2丁目20-1（約21,600㎡）

○教育目標

「生徒一人一人の個性を大切にし、将来を見通した生きる力の育成をめざす」

- ・豊かな心と感性を育み、夢や生きがいをもって、主体的に生きる力を育てる。【徳】
- ・人とかかわりを豊かにし、社会の中で柔軟にたくましく生活していく力を育てる。【徳】
- ・基本的生活習慣の確立を図るとともに、社会生活に必要な知識・態度・技能を育てる。【知】
- ・卒業後の自立・社会参加に向け、発達段階に応じた職業観・勤労観を育てる。【知】
- ・体力の向上を図り、心身の健康を維持する力を育てる。【体】

○めざす生徒像

- ・たくましい生徒（自立）
- ・のぞみ、かなえる生徒（夢）
- ・のびゆく生徒（挑戦）

○沿革

平成29年4月 熊本市立平成さくら支援学校開校（修業年限3ヵ年）

平成29年10月 開校記念式典

平成30年3月 熊本市立平成さくら支援学校入学者選抜（予定）

（3）教員が子どもと向き合う時間の拡充

学校への人的支援の強化のほか、学校のマネジメント力強化に向けた管理職等の研修プログラムや、校務支援の充実を図り、効果的・効率的な学校運営を推進するなど、教員と子どもがしっかりと向き合える環境づくりを行います。

■学校教育コンシェルジュ

平成28年7月から学校教育コンシェルジュを設置し、4名の専門スタッフが学校教育に関するあらゆる相談に応じている。必要に応じて、学校や家庭など現場に出向く。

- ・対象 保護者等
- ・相談方法 電話、メール、面談
- ・設置箇所 こどもセンター「あいぱる くまもと」2階：教育相談室内
- ・相談時間 月～金曜日（祝日、年末年始を除く） 午前10時～午後6時

・連絡先 【電話】096-362-7171 【電子メール】7171con@city.kumamoto.kumamoto.jp

<対応状況>

	28年度
相談件数	262件
相談対応回数	967回

■学級支援員

教育活動に支援を要する園・学校に、幼児児童生徒の安全確保、学習環境の改善を図るため、担任の補助となる学級支援員を配置している。

<学級支援員数の推移（各年度1学期）> ※教育活動サポーターを含む

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
配置学校数（園・校）	127	125	135	134	138
学級支援員（人）	121	127	131	131	134

■中学校教頭教科非常勤講師派遣

中学校において、教頭の授業の持ち時間をなくし、教頭本来の職務に従事させるため、平成19年度から全ての中学校に1名の非常勤講師を配置している。

■学校現場の負担軽減事例集の作成

学校現場における教職員の負担感を軽減し、子どもと向き合う時間を確保するため、平成21年度から「学校現場の負担軽減検討委員会」を設置し、教育委員会と学校現場がそれぞれに取り組むべき具体的方策を検討し、できることから実施してきた。

平成25年12月に実施した「教職員の負担軽減に関するアンケート」の結果の分析や、スクールミーティングでの意見を踏まえ、具体的な負担感の解消に取り組んでいくとともに、学校現場における取組を支援することを目的として、平成28年3月、負担軽減に取り組んでいる学校の事例をまとめた「学校現場の負担軽減事例集～教職員が子どもと向き合う時間を確保するために～」を作成した。

今後は、この事例集の活用を各学校に促して、学校現場の負担軽減の取組に役立ててもらおうとともに、平成29年度においては、新たなプロジェクトを立ち上げ、学校現場の業務改善に向け取り組んでいく。